

東富水・富水・桜井地区の 「新しい学校づくり」を考えるワークショップ 第1回 主な意見まとめ

Aグループ

○ 前提について

- ・新しい学校づくりにおいて、「学校の場所」の重要性は高くないと思うが、なぜそこだけにフォーカスして話をするのか？
- ・説明があった「新しい学校づくり」の内容が実現可能とはとても思えない。実現できる前提として話し合いを進めて良いのかが疑問。
- ・前提条件によって、配置案の判断が異なる。(学級数、自転車通学の可否、財源など)
- ・カフェなどを併設するといった話があったが、外部とのつながりの危険性をどう考えるか。
- ・報徳小学区は本当に人口がこんなに減っていくのか。
- ・通学の体感を考えたときに、(基準とされている) 4 km を歩かせるのはどうなのか。
- ・自治会を変える話も出たが、避難所が減ることが無いように、例えば統合後の学校の活用や避難所の開設についても考えるべき。
- ・今あるものでどうしていくか、考えるべきではないか。

Bグループ

- ・話し合うにあたって論点が多すぎる。老朽化/少子化/教育内容に分けて話し合いたい。
- ・今の想定は 20 年後だが、30 年後・40 年後経った時にもっと減るのではないかな？本当に 20 年後の想定でいいのか。
- ・通学距離は、鉄道を使っても結局は遠いところも多くある。
- ・小中一貫校は、9 学年の世代間交流ができることがいい点。
- ・今後、教育のあり方が変わっていったら、学級数がそこまで重要でなくなる可能性もなきにしもあらず。
- ・フリースペース、ユニバーサルデザインの充実を進めるべき。

Cグループ

- ・通学距離が長くなった時にできることはないかという提案として、送り迎えの要件緩和(例: 荷物の多い日、子供の体調が良くない日など)、駐車場の確保が必要ではないか。
- ・長い距離の通学に対して、途中で休憩所を設けられないか。制服を着たまま、荷物をもったまま休むことができたり、水を飲むことができたりすることで、長い距離に対応できないか。
- ・小中一貫教育について、人間関係が小・中で固定してしまうことが不安。親の気持ちとしては人間関係が固定されたときにどうしよう、というところがある。
- ・防災拠点としての学校の役割と、教育施設としての学校の役割をそもそも切り離せるのか。切り離せないのなら、それを前提に話をしないといけないし、公民館などを防災拠点とできるなら、また別の考えもできるのではないかな。

Dグループ

- ・一番平和的なのは、中学校がまん中にある、小学校3校が分散しているケース1ではないか。ただ、統廃合で学校が遠くなる子もいるかもしれないので、その場合はスクールバスを回せばいいのではないかな。
- ・自治会と学校のことをどうするか、を考えた時に、自治会を新たに編成しよう、という意見もあったが、現実問題としてできるのか。統廃合をきっかけに地域を考えてはどうかな。
- ・ケース4として、ケース3の発展形として、泉中学校区側にも小中一貫校をつくって、魅力ある学校としてそれぞれ競い合っていけばより良い学校となるのではないかな。
- ・もっと長いスパンで見るとさらに人口も減っていくので、小中一貫2校、さらにその先は真ん中に小中一貫校1校、ということも考えられる。

● まとめ（遠藤委員）

- ・前提条件になっているところをどのように共有しながら議論していくのかという難しさがある。新しい学校がそもそもどうあるべきかについて、どのように共有しながら議論するか、どのように組み立てれば良いかということを整理する必要がある。
- ・自治会と学校のことをどう考えるかという点については大きな論点になりそう。
- ・都市計画や人口動態等も踏まえた検討も必要となってくる。関連する通学距離、通学手段についても整理する必要がある。

● 今日の感想

- ・良かったです。
- ・協議の柱を決めて下さい。
- ・自治会と学区の結びつきについて初めて意識しました。
- ・地域、学校の現状について改めて確認でき、良かった。
- ・活発な議論で良かった。
- ・いろいろな立場の人がいろいろな視点から意見を出しあえたのが良かったと思う。
- ・配置案が決まっているにもかかわらず、参加者を刺激しない様、主旨をにごしているので分かりづらかったです。
- ・「様々な立場の方々と語り合うことができた」ということが、大きな一歩だと思います。
- ・学校の配置については理解できた。
- ・学校と地域のことをもっと深めたい。
- ・普段聞くことのできない様々な立場のご意見を伺うことができました。
- ・新しい視点を考える難しさを痛感しました。
- ・皆さんが、今日集まったとは思えないくらい、意見が出ました。有意義な会でした。
- ・いろいろな立場の方からのご意見、視点をいただくことができ、学校が置かれている側面を考えることができました。
- ・市としての「これからのあるべき学校の姿」という全体像がない中で、本日のお題のグループワークは難しいと思いました。
- ・様々な観点から議論をふくらませることができ、充実したワークショップを行うこと

ができたと思います。今日出た意見をもとに、今後も検討を進めていければ良いと思います。

- ・ 地域の方々の様々な意見を聞くことができ、とても勉強になりました。子供たちの人間関係を考えると中高一貫校があまりよくないなど、マクロだけでなくミクロの視点も重要だと感じた。
- ・ 色々問題はあったと思いますが、一つ一つ深掘して解決していければと思います。
- ・ 今回、初めての参加で、この先の未来の学校づくりに関して、関係者の方々と、意見、情報交換ができて勉強になりました。
- ・ 建物の老朽化と教育面、少子化、難しいと思いました。

● あなたが考える新しい学校

- ・ 小中一貫校で
- ・ 小中一貫のスーパーサイエンス学校、南北2校！
- ・ 規模は大きく効率的に、選択肢は細かく多様に
- ・ 新しい学校⇔学校の再編 うまくリンクしているか
- ・ 子供がゆとりを持って学習できる学校を
- ・ 20年後のことは想像できますか？（子供・自治会）
- ・ 遠くても子供を行かせたくなるような学校にしてくれ！
- ・ 報徳小学校の周りには空地が多いので、統合するには良いのではないか。
- ・ 建物は防災に強く。自治会がそんなに力があるのか？若い世代は自治会に興味ないんです。
- ・ これまでの枠にとらわれない発想で考えていくことが大切だと思いました。それがどういう形かまでには至っていません。
- ・ 学校はどんなときにも、どの子にとっても居場所があり、そこに関わるすべての人が笑顔になれる場所である、ことが一番大切だと思います。
- ・ 地域の中の拠点となる必要があるとは思う。
- ・ 新しい学校と考えたときに教育内容だけでないということを感じましたが、今、教育が変化していこうとしていることも、もっとアピールする必要があると感じました。
- ・ 学校の生徒数を平均化するため自治会を変動させる。
- ・ 新しい学校づくりの基本方針は、すばらしいと思うが、実際に出来るのか？（カフェ・地域の方との関り方、防犯）
- ・ 地域に愛される特色のある学校、子供の視点を忘れないことが大事だと思う。
- ・ 少子高齢化の中、様々な人々が快適に暮らせる空間を作れると良いと感じた。
- ・ お年寄りの子供の元気に触れると元気になると言います。また、子供も教わる人が多いです。多世代交流の場にしていけるといいと思います。
- ・ 規模だけでなく、多様な学びのスタイルを実現すべき。小中一貫校は必要だと思うが、メリット・デメリットがある。学区等の柔軟化、又は選択制が必要。

東富水・富水・桜井地区の 「新しい学校づくり」を考えるワークショップ 第2回 主な意見まとめ

※表中の丸数字：配置のケース

Aグループ

	よい点	課題	よくするためのアイデア
学校	・ 学校のカリキュラムにない部分を地域から学ぶことができる ・ 富水小学校の体育館・グラウンドの使用について年度末迄に各団体が使用する日程を提出する ・ 地域から学ぶ、人・もの・こと⇒地域を学ぶ		・ 地域の人・活動カリキュラムに組み込む ・ さざなみ会 泥だんご ・ どんな学校をつくっていくべきかの議論がある 公民館の要素+学校
こども	・ 様々な体験 ・ 学校で教えてくれないこと	・ 子供の人数が少ない為、活動がしにくい ・ 習い事をしている子供が多い為、地域との関わりが少なくなっている ・ 選択肢が増えている	・ 子ども会が全部子供に対応する、ということを変えていく必要がある
保護者	・ PTA が主体となって負担が軽くなるような方法を考えている	・ 現役世代は平日仕事をしているので、PTA や地域の活動に参加しづらい ・ PTA に求められていることや自治会に求められていることが変わってきている ・ 習い事など ・ 子育ての様子が変わってきている ・ PTA に求められることが少なくなっている また対応出来ないことも ・ 子ども会	・ 子供たちの遊びが多様化していることを把握する、子育ての仕方も変わっているために求められていることも変わっていることを共通認識として持つ
地域		・ 地域の活動に現役世代は参加しづらい	・ 子供のために⇔高齢者のためで考える ・ 新しい子育ての形を受け入れる
その他			・ 自治会の協力ありきなのでは ・ スタートが時代にあっていない

Bグループ

	よい点	課題	よくするためのアイデア
学校	・ 防犯パトロール拠点が多い ・ 通学路を見守ってくださり、普段の様子を伝えてくれる	・ 子供を守る者(自治会役員など)が不足している	・ 学校の活動を発表する場をつくる
こども	・ 地域のイベントなどで大人を知ることができ、顔見知りが増えることで、防犯効果につながっている ・ サマーフェスタなど多くの大人のつながりを感じることができる ・ 親や学校だけでは見きれない部分を地域の方に見守っていただける ・ 地域の歴史を知ることができる ・ 見えない点を知ることができる	・ 子ども会に所属する子供が少ないため、地域との関わりが持てていない ・ 子ども会に所属していない子供が地域と関わる機会が少ない ・ 子ども会への所属が少なくなっている ・ 子ども会組織はあるが組織が減少的になっている ・ 地域主体の活動が少なくなっている	・ イベントなどを通じて参加者を募る ・ 地域の人、子供がイベントに参加するきっかけづくり ・ 子ども会の活動を増やすイベント
保護者	・ 地域の方々の関わりを見ることができる ・ 親以外の「大人」との関わり ・ 防犯・防災 ・ 顔の見える関係、安心		
地域	・ 防犯パトロールやイベントなどで地域と学校の関わりができています ・ 顔見知りが増えることで、防犯効果につながっている	・ 自治会の役員が少ないため、負担になっている ・ 高齢化による役員不足 ・ 自治会負担 大 ⇒バックアップ必要 ・ 指導してくれる人が必要、連携する ・ 自治会で専門の人材育成 ・ 自治会以外で活動してくれる人(団体)と連携	・ 外部人材を育成して、仕事を分散する ・ 市や外部との連携で、バックアップ体制をつくる
その他	・ 見据えた提示があるといい ・ 駅の近くに学校つくる③ ・ 電車通学③ ・ スクールバス(安全か)③ ・ 通学方法とパトロール ・ どもを守る手段④	・ 子供と地域の関わり少なくなっている④ ・ 学区と自治会別 ⇒とまどい④	

Cグループ

	よい点	課題	よくするためのアイデア
学校	・ 災害時には、地域と連携して連絡網なども活用して非常時の活動がしやすい ・ 学校を通して地域とのつながりが生まれる？ ・ 現状でも地域の協力を得られている 地域⇄学校 ・ あいさつ運動 年間 20 回 月 2 回 7:50~8:20(自治会協力) ・ 災害時・異常時の対応がとりやすい	・ 不登校児などでは学校とつながらない可能性がある ・ 防災訓練は学校単位 ・ 主催は自治会で運営が大変	・ 学校外のコミュニティなどで災害時につながる場をつくる必要がある ・ 学校以外のコミュニティ⇒連絡網、災害時のつながりに
こども	・ 地域のイベントなど、子供の活躍の場があるため、成長につながる ・ 子供の見守り	・ 学校とつながっていない子にとって学校を中心とした場所が居づらい(災害時とか) ・ 学校以外のつながり	
保護者		・ 子供が成長すると学校が遠くなる⇒地域も遠くなる？ ・ 学区と自治会のズレ ・ 自治会で情報が入っている学校、入っていない学校がある ・ 自治会がまたがっていることによる連携の難しさ ・ 地域ごとに生活パターンも文化も違う	
地域	・ 昔は怖いおじさんがいた⇒社会のルールを知る機会 ・ 地域での子供の活躍の場 ・ 年代間のリンク・交流が取りやすい ・ 学校施設を地域のために ・ 地域に開かれた学校 ・ 地域の子供を学校と地域で育てる意識	・ 学区と自治会のずれがあることで連携が難しいところがある ・ 自治会の中間層がない	・ 自治会と学校を一体として考えずに、人材や資金を分けて考える必要がある ・ 新しい学校を考える上で誰に負荷がかかるかを考える ・ 子供の親世代、中間層がない(30~40代)、忙しい、関心がない ・ 自治会と学校を一緒に考えすぎてはいけない!!
その他	・ 富水地区全部 ・ いずみふれあい通信⇒地域の予定行事が分かる ・ 災害時にデータベース(名簿など) あるべき ・ デジタル化	・ 学区と自治会が一緒だと災害時も楽になる ・ 学校再編だけでなく自治会再編もするべきでは	

Dグループ

	よい点	課題	よくするためのアイデア
学校	・ 校舎が広い ・ 地域のサポートがないとできないこともできる環境にある	・ コロナをきっかけにさまざまなイベントがなくなってしまい、子供の交流や大人の交流の機会が減った ・ コロナ前の教育活動に戻したい ・ コロナで短縮したイベントが戻らない ・ 学校が保護者と関わりにくい状況を作っている(行事の平日開催など)	・ イベントを少しずつ再開する ・ コロナで縮小した行事などを少しずつ再開するなどしていく ・ こども食堂のような不登校の子たちが来やすい場所(大学生が手伝いに来るような)
こども	・ イベントなどに参加できる ・ エアコンのある部屋(教室)を図書館に変更することができた	・ 交流が減ったことで内気な子が増える、子供の体力や孤立、などの影響が出ている ・ 統合して人数が増えたと不登校なども増加すると思う ・ 子供が関わるのが苦手になっている(コミュニケーションすることが出来ない) ・ 遊びの変化	・ 子供同士の交流の機会を増やす ・ 世代間の交流を増やす ・ 行事の期間をずらすなど(熱中症対策として) ・ 園児が小学校を入学前に体験できるようにする(安心のため) ・ 学区に関係なく、学区外の学校へ転入できるようにする
保護者	・ PTA の役員の提案が実現できる ・ アイデアが直接出せる	・ PTA に入っていないと行事に参加できない ・ PTA は任意なので入らない家庭もある ・ PTA なり手がない ・ 学校ばなれ(コロナで少人数)	・ 本部に入ってよりよくする活動にしてい
地域	・ 顔見知りが増える	・ 地域や学校間を超えて取り組むことが、コロナがあって難しくなった ・ 自治体に属していないと祭りに出られない ・ 統合されるとそれぞれの学校間の差が出てしまう ・ 元気な学校と大人しい学校、保護者の感覚など	・ 改善に向けては PTA 主体の行事(ふれあいフェスタ)や学校の協力が必要
その他	・ 地域の色	・ 学校の判断ではなく市に決定してほしい ・ 修学旅行の判断を校長先生に委ねると保守的になりやすいのでは	・ 学校って楽しいと思えるような活動 ・ 地域の特性をいかした活動を取り入れていく ・ 給食費を無料にする

E グループ

	よい点	課題	よくするためのアイデア
学校	・ 地域の伝統を学べる ・ イベントが開催しやすい ・ 学校環境整備へのボランティア	・ うまくつながりきれていない⇒つながりきれば課題はなくなる ・ 人口密度が減っている⇒防犯・見守りに課題 ・ 防犯⇒顔見知りになれば良い	
こども	・ 遊び場がある ・ 顔と名前がわかる人が増える⇒信頼	・ 学校外の活動の幅が地域を超えている ・ 参加する子が減っている ・ 地域の人と先生のどっちを信じるか⇒環境が必要(子供が考える)	・ あいさつをするだけでいい ・ 広く浅く地域の人に関わる ・ 小中一貫で縦のつながりを増やす④
保護者	・ 子育てを応援してもらえる ・ 保護者の相談ができる	・ 保護者が不安に感じている	
地域	・ 地域の安全について相談できる ・ 地域全体で子育て・見守りしてもらえる	・ 相互理解が必要	・ 広く浅く地域の人に関わっていく④
その他	・ 相互見守り	・ 全域での活動へ展開する方法	・ 日常生活取り入れる(義務感は嫌) ・ 見守るだけなら家の前に出れば良い⇒地域で協力おじいちゃん・おばあちゃんこそ外にでる⇒高齢者の見守りにもつながる①～④ ・ 広く浅く ・ 地域・保護者・子供で見守り(あいさつ等)を理解する

F グループ

	よい点	課題	よくするためのアイデア
学校	・ PTA、自治会と良好な関係でいろいろな活動ができている ・ PTA の活動が活発	・ 学区と自治会がずれていることで連携しにくいところがある ・ 施設の老朽化は課題	・ 報徳小を自治会でもっと利用する ・ 小中一貫にすることで施設の費用おさえられる③④
こども	・ いろいろなイベントに参加でき、成長につながる ・ 季節の学校外イベントがたくさんある ・ 畑など自然とのふれあいがたくさんある ・ 学校が無い時間の居場所		・ 卒業生の地域とのつながり ・ 宿題をやるイベント④ ・ 各エリアに公共施設がある④
保護者	・ 積極的に学校に関わっている ・ 保護者の積極的な活動がある ・ 年 2 回魚の掴み取り		
地域	・ 地域愛がかなり強い ・ 学校への協力体制が整っている ・ ボランティアによる防災性の向上 ・ 学校を超えたつながりをもてる	・ 高齢化が進み、担い手の育成が課題 ・ 修繕費をどこから出すのか(今は PTA 会費)	・ 公民館などを活用して、高校生を巻き込んで学習ボランティアなどできるといい ・ 若い人のボランティア参加 ・ 地区の魅力のアピール ・ 自治会として動きやすい①②
その他	・ 報徳学区は若い ・ 子供の遊びの為の寄附が集まる ・ 学校外施設の活用	・ 子供だけでない大人のつながりも	・ 大人から積極的にアピールを

● まとめ（遠藤委員）

子供たちも地域社会も、昔と比べて変わってきているそれに対して、新しい学校をつくるときには対応していくように、地域側も変わらなくてはいけないところもあるかもしれないし、学校も変えなくてはいけないところがあるかもしれないかといって、変われ、変われと言うばかりではなく、今既に相当な負担を抱えているところもあるので、そういったところをダイナミックに改善できるやり方を考えていくのは、今後の知恵の出しようだと感じた

「交流」とか「地域」とか、地域社会が子供たちにとってよりよい場所として感じられることが大切で、そういったことを踏まえて、「新しい学校」がどうあるべきかを考えていく必要がある